

1. 研究背景

本邦では糖尿病が強く疑われる者は増加傾向にあり、糖尿病が強く疑われる者の割合は、年齢階級が上がるにつれて増加する。さらに、本邦では人口の高齢化に伴い、今後糖尿病を有する高齢者の多くが入院療養から在宅療養へ移行すると予測される。高齢者は糖尿病による合併症の影響を受けやすいと示唆されており、高齢者自身が在宅で適切に療養を継続するためには外来での適切な教育的支援の実施が必要である。2型糖尿病を有する高齢者に対して望ましい教育的支援のあり方を検討するために、外来場面で看護師がどのように教育的支援を行っているのか明らかにする必要があると考えた。

2. 研究の目的/意義

【研究の目的】

2型糖尿病を有する高齢者に、外来看護師が教育的支援をどのように行っているのか明らかにする。

【研究の意義】

2型糖尿病を有する高齢者に、外来看護師が教育的支援をどのように行っているのか明らかにすることによって、2型糖尿病を有する高齢者に対して望ましい教育的支援のあり方を検討することができる。

【用語の定義：教育的支援】

援助者と対象者が共に考えながら、対象者が積極的に自らの健康問題を解決し、意思決定する上で必要となる知識や手技を習得できるように、援助者が行う教育的な活動とする。

3. 研究方法

【研究デザイン】：質的帰納的研究

【研究参加者】

- 1) 研究対象施設：下記の条件を満たす1施設を便宜的に選出した。
 - ①糖尿病治療の目的で高齢者が通院する外来が設置されている病院
 - ②外来看護師により2型糖尿病を有する高齢者に教育的支援が行われている病院
- 2) 研究参加者：下記の条件を満たす6名の者を対象とした。
 - ①糖尿病治療の目的で高齢者が通院する外来に勤務する看護師
 - ②病棟や外来における看護師経験が合計して5年以上ある看護師
 - ③①の外来において、高齢者に単独で教育的支援を行った経験をもつ看護師

【データ収集方法】

- 1) データ収集内容
 - ①教育的支援を行った高齢者の年代、家族状況、既往、糖尿病の有病期間等
 - ②2型糖尿病を有する高齢者への教育的支援のプロセスにおいて、その時の状況や具体的な教育内容と方法、高齢者とのやりとり、教育的支援の目標、看護師の思考や判断について等
- 2) データ収集方法：インタビューガイドを用いた60分程度の半構造的面接

【分析方法】

収集したデータは、グラウンデッド・セオリー・アプローチ(以下GTA)を用いて分析した。GTAは質的研究法の一つであり、相互作用によって成り立つ事象の変化のプロセスを明らかにできるという特徴を有する手法である。教育的支援の場面では、2型糖尿病を有する高齢者と外来看護師の間で相互作用が生じ、それによ

って教育の方向性が変化する。したがって、その変化のプロセスを現象として把握するために、GTA を用いることにした。

4. 研究結果と考察

【研究結果】

1) 研究参加者の概要：研究参加者の概要を以下の表 1 に示す

表 1.研究参加者の概要

事例番号	研究参加者（看護師）の属性			高齢者の属性		教育的支援の内容
	研究参加者の年齢/性別 仮名：A	看護師 経験年数	当該外来 での経験年数	高齢者の 年齢/性別 仮名：a	高齢者の 治療内容	
1	50代/女性 仮名：A	30年	7年	75歳/男性 仮名：a	食事療法 薬物療法	食事制限に関して
2	50代/女性 仮名：B	32年	10年	76歳/男性 仮名：b	食事療法 運動療法 薬物療法	食事制限と 運動療法に関して
3	30代/女性 仮名：C	17年	8年	73歳/女性 仮名：c	—（内服治療 自己中断中）	インスリン 自己注射に関して
4	40代/女性 仮名：D	23年	8年	70代/男性 仮名：d	食事療法 薬物療法	合併症の説明 食事制限に関して
5	30代/女性 仮名：E	11年	4年	78歳/男性 仮名：e	食事療法 運動療法 薬物療法	インスリン製剤の切り 替えに関して
6	30代/女性 仮名：F	15年	0.5年	78歳/女性 仮名：f	食事療法 薬物療法	低血糖発作の対処や 予防に関して

2) 【変化の可能性の評価】という現象

インタビューによって収集したデータを分析した結果、【変化の可能性の評価】というカテゴリーを中心とする現象が明らかになった。

【変化の可能性の評価】という現象に関わるカテゴリーとして、【変化の可能性の評価】《問題の危険性を査定する》《原因の探索》《変化の必要性の理解を見極める》《療養の方向性の検討》《伝えるべき情報の選別》《目標のすり合わせを試みる》《意欲の確認》《変化に向けた動機づけ》《変化に向けた教育》《現状維持を目指す》《方針の見直し》という 12 のカテゴリーが抽出された。【変化の可能性の評価】という現象では、《変化に向けた教育》《現状維持を目指す》《方針の見直し》という 3 つの帰結に至る 26 のプロセスが見い出された。

本研究の結果として、2 型糖尿病を有する高齢者へ外来看護師が教育的支援を行う場面において、看護師がどのように高齢者の【変化の可能性を評価】するかにより、教育の方向性が変化的なことが明らかとなった。高齢者の変化の可能性が比較的高い場合には、看護師は《変化に向けた教育》を行っていた。しかし、高齢者の変化の可能性が見込まれる場合でも、看護師は、高齢者の療養に対する希望や意欲を見極めて、《現状維持を目指す》ための教育や《方針の見直し》を行う場合があった。

【変化の可能性の評価】の場面で、高齢者の変化の可能性が低い場合には、看護師は《伝えるべき情報の選別》を行うことにより、《現状維持を目指す》あるいは《方針の見直し》という方向性に至っていた。《変化に向けた教育》だけでなく、《現状維持を目指す》ための教育的支援も、2 型糖尿病を有する高齢者へ看護師が行う援助の 1 つになり得ると考えられた。

5. 今後の課題

本研究は、外来看護師に対するインタビュー調査によってデータ収集を行い、【変化の可能性の評価】という現象が明らかになった。今後は、この結果をもとに、2 型糖尿病を有する高齢者に対する外来看護師の実際の教育的支援の場面の観察データを収集して分析し、研究としてまとめる。